

経済透視図

(144)

医療財政改善へ

2025年10月以降、医療上の必要性がジェネリック医薬品ある場合などを除く（後発医薬品）は、新規、患者の希望により規医薬品（先発医薬品）の処方を受けるの特許満了後に製ける場合は、先発医薬品と後発医薬品の薬価の差額の4分の1相当と安全性を有する医薬品を患者が負担する、い品を指す。後発医薬品ある先発医薬品（長期医薬品の薬価の5割から7割の価格に抑えられ、医療費の削減効果が期待される。善が期待されるのと同

ジェネリック医薬品事業の動向と展望

時に、後発医薬品の普及。このため後発医薬品及拡大も想定される。品メーカーは新規製品一方、後発医薬品はを継続して上市・販売

産が少量多品目に陥るケースが多い。

業務改善命令などの行政処分も継続して発生している。後発医薬品メーカーは収益を確保しつつ多数の品目の品質を管理し、地政学的リスクも加味しながら

安定供給が必須

また、製造コストを抑えるため、原薬の大部分を安価に調達でき

がとにも多い企業は、再編・統合・適切な品目削除によるシェアの拡大や生産性・収益性の向上により、総合商社型の企業に成長していくこと②一定の領域では他をリードする領域特化型の企業は、自社の特長を生かした領域に品目を集約し、生産性を確保できる適切な規模で安定供給を担うこと③一つの成分について多くの企業が参入し、少ないシェアをもち合う状況は、安定供給や生産性の向上に資するとはいえず、成分ごとの過当競争を適（隔週水曜日に掲載）

再編で過当競争から脱却

薬価改定で薬価が低くしないと安定収益を維持される傾向が強持するのが難しく、生

安定供給を続けなければならぬという難しい環境にさらされている。



SMBC日興証券
産業・サステナ
ビリテイ戦略部
藤安次郎

る中国やインドからの輸入に依存している。ただ、パンデミックなどの有事においては原薬確保は困難で、供給停止のリスクが存在する。

厚生労働省は、後発医薬品業界の理想的な姿として、以下3点を提案している。

①数量シェアや品目

無断転載・複写禁止